

調査サイト

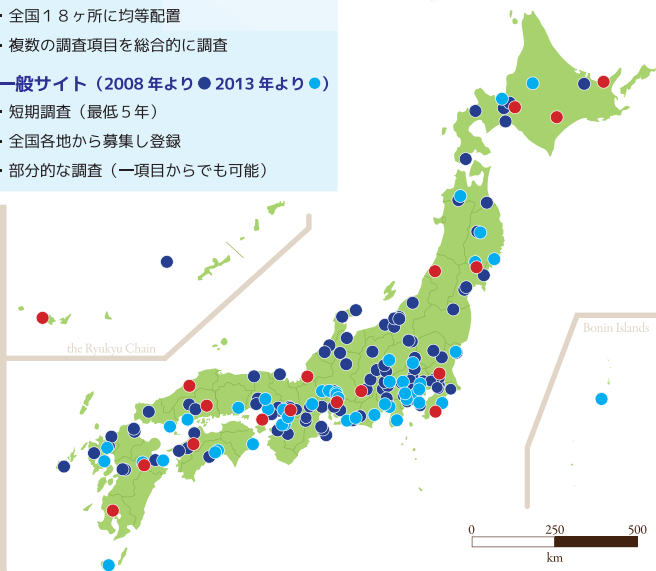
調査サイトは全国に約 200 か所。
今日もきっとどこかで調査がされています。

コアサイト ●

- ・長期調査（100年間）
- ・全国18ヶ所に均等配置
- ・複数の調査項目を総合的に調査

一般サイト（2008年より●2013年より○）

- ・短期調査（最低5年）
- ・全国各地から募集し登録
- ・部分的な調査（一項目からでも可能）



参加するには？

近くのサイトで調査に参加したい

日本自然保護協会にご連絡ください。
お近くのサイトをご紹介できるかもしれません。



自分の地域でも調査をしたい

マニュアルや記録用紙をホームページにて公開しています。一般向けの調査講習会も随時開催していますので、ぜひご参加ください。

環境省のモニ1000サイトとして登録してほしい

一般サイトでは、5年ごとにサイトの見直しを行い、その際にサイトの再募集を行う予定です。次回は2017年度を検討しています。

詳細はHPをご覧ください。

<http://www.nacsj.or.jp/project/moni1000/>



舞台は「里やま」。市民が主役の調査です！

里やまは、ため池や二次林などさまざまな環境を複合的に含み、多様な動植物が生育しています。

さらに、里やまの多くは私有地で自由に入出入りできる場所は多くありません。

そのため、全国レベルで里やまを調査するには一部の専門家や行政だけでは難しいといわれてきました。

一方で、各地域には、地元の方と丁寧に関係をつくり、誰よりもその地の生きものたちに愛着をもつ「市民」の皆さんがいます。

こうした市民の皆さんの身近な自然をみつめる目をつなぎあわせることで、里地調査はスタートしました。

身近な自然を知り、記録し、残していくために、里地調査にご協力ください。



モニタリング サイト1000 里地調査

あなたの近くに
ずっと守っていききたい里やまはありますか？



（公財）日本自然保護協会 モニタリングサイト1000里地調査事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F

TEL：03-3553-4104 FAX：03-3553-0139

Mail：moni1000satochi@nacsj.or.jp

モニ1000里地

検索



発行：2014年4月

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

日本自然保護協会
NACSJ THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

里やまを見守ってゆく調査

「里やま」は、水田耕作や林業、放牧などの人による伝統的な営みによって、長い歳月をかけて築き上げられてきました。そこには、集落やそれを取りまく二次林や水田、ため池、草原などの変化に富んだ環境が形成され、多様な動植物のすみかとなっています。

しかし近年、宅地開発や水質汚染などの人間活動、伝統的な営みの放棄、外来種の侵入といった様々な要因により、里やまとそこで育まれる生物多様性は急速に変化しています。

このような里やまの変化をいち早くとらえ、保全に活かしていくことを目指したプロジェクトがモニタリングサイト 1000 里地調査です。

モニタリングサイト 1000* について

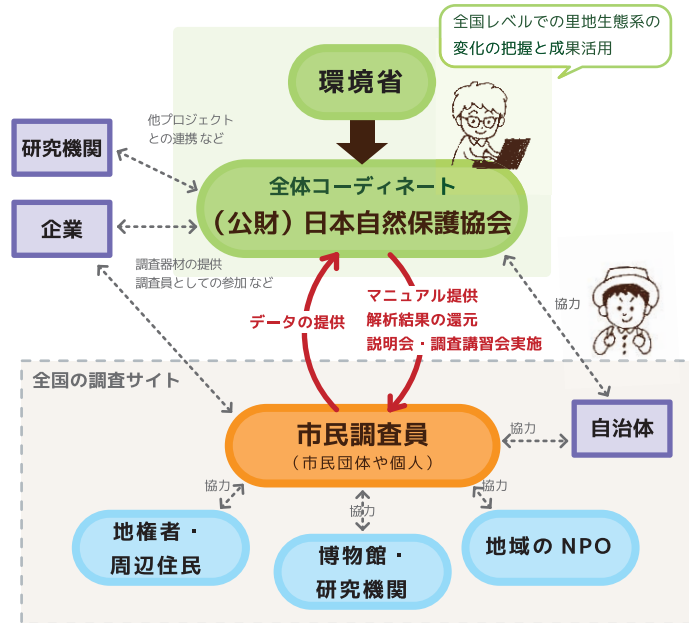
環境省生物多様性センターが「第二次生物多様性国家戦略」に基づいて 2003 年度から開始した事業です。全国の約 1000 カ所にサイト（調査地）を設定し、100 年間の長期にわたりモニタリング調査を実施することで、生態系の変化を早期に把握し生物多様性の保全に資する迅速な対策に結び付けていこうというものです。全国に存在する約 1000 カ所のサイトは生態系タイプ(森林・草原、湖沼・湿地、サンゴ礁…など)ごとに分けられており、里地里山(里やま)もその一つです。

■ 環境省生物多様性センター モニタリングサイト 1000 HP : <http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

* 正式名称「重要生態系監視地域モニタリング推進事業」

調査実施体制

モニタリングサイト 1000 里地調査（以下、里地調査）では、市民調査員の皆さんが主体となって調査を実施しています。全国 200 カ所の調査サイトでは、市民調査員の皆さんが地権者の方とのやり取りや調査の実施、サイトの周辺住民への調査成果の還元などをされています。



全体をコーディネートする事務局は、2004 年から日本自然保護協会が担い、環境省と連携しながらプロジェクトの運営をしています。調査の実施や調査結果の活用のために、博物館などの研究機関や企業、各地域の関係者の皆さんと連携して「市民」が自ら地域の自然を守る体制づくりを目指しています。

調査内容

里やまの多様な環境をくまなく把握するために、動植物などの 9 項目にわたる調査を実施しています。

項目	調査手法	調査期間・頻度
植物相	調査ルート上の植物の種名を記録	毎月 1 回
鳥類	調査ルート上の種名・個体数を記録	繁殖期、越冬期に各 6 回
中・大型哺乳類	自動撮影カメラにより種名・撮影頻度を記録	春～秋にカメラを設置
水環境	水位・流量、水温、pH、透視度を記録	毎月 1 回～年 4 回
カヤネズミ	調査区画内の巢の有無と環境条件を記録	初夏と秋の年 2 回
カエル類	アマガエル類の卵塊数と環境条件を記録	産卵期間中(冬)、2 週に 1 回程度
チョウ類	調査ルート上の種名・個体数を記録	春～秋に月 2 回
ホタル類	成虫の個体数と、環境条件を記録	発生ピークまで 7～10 日に一度
植生図	相観植生図を作成	5 年に 1 回

それぞれの調査マニュアルや調査記録用紙は里地調査の HP で公開しています。
<http://www.nacsj.or.jp/project/moni1000/howto.html>

日本自然保護協会とは？ ～自然を守りつづけて 60 年！～

1949 年、日本自然保護協会はダムの底に沈もうとしていた尾瀬を守るために発足しました。それから 60 年、全国各地の未来に引き継ぐべき自然を守る活動に取り組んできた自然保護 NGO です。

自立性と独立性をもった NGO として、それぞれの地域の自然を尊重できる社会づくりの提案と実践に、全国の会員の皆さんとともに取り組んでいます。